

# FAX 通信

2026年3月1日発行 No.04-039 From KOTANI

ホームページ <http://www.kotanikk.com>

## 新シール概論 (3) 9.分野別におけるシールに関する話題 (続き)

最近、国内の空気圧機器のコンパクトさには驚きます。やはりこれらには、前回に述べましたような材料もありますが、使用されているパッキン類は極限に近い断面を持つものになっています。

これらは、特に国内のもの特有のものと言えます。

今後の利用される材料として、小断面となっていますので、やはり強度が更に要求されるので、耐水性の改善されたウレタンゴムや熱可塑性ゴムも出現すると予想されます。

\*シールメーカーへの「お願い事項」ここで少しだけ中断してお願い事項を記載します。最近のカタログなどでのゴム(シールメーカーでの)名称に不満を感じる事が多くなりました。理由は、国内ではゴム配合は社外秘密であり、一般には開示されていないのが現状です。しかしながら、同じゴムでも性格が異なることも多く、ユーザに混乱を与えているような感じが多くなってきました。たとえば、NBRではニトリル量の大小で相当な差が出ます。

これを NBR のみと表現するとあるメーカーの配合はどちらなのか。全く読めません。

ニトリル量の少ないものは、耐寒性は良いが、耐油性が劣る。逆に量が多いと耐寒性が悪いが、耐油性が良い。米国では2001年にゴム材料の名称の規格が変更になり更に細分化されてきています。

ASTM D 1418-01 Standard Practice for Rubber and Rubber Lattices - Nomenclature では、例えばFKMはType 1～5まで詳しく分類されています。

したがって、別に全ての配合内容を開示する必要はありませんが、FKMではこのType程度の表示や、NBR (HNBR) ではニトリル量の大小 (H, L の表現でもよい) やまた国内ではFEPM (旭硝子のアプラス) はFKMと区別してユーザに開示する時期かもしれません。

言いたいのは、現時点では間違ったイメ

ージをユーザに与えている可能性があるということです。FKMの種類によっては、耐薬品性が大きく異なり使用できないものと使用できるものがある場合もあります(両極端な場合もあり得ます)。

ゴムメーカーの言い分は、個々の対応で処理すると言いますが、カタログなどで購入するユーザが多くあり、現時点では非常に不親切であると思っています。

しかし、このような小言でも実際には全くメーカーは開示することはないと思いますけど。

諸外国を見ても同様です。

従って、材料に関しては、配合番号などで分離して管理することが、最重要であることは明確になってきたと感じる最近です。

単純に材料記号による管理では無理になって来ている時代ですので、そのあたりを十分にご理解ください。他方、コストなどを配慮して原材料の統一などもあり、いつまでも同一材料の使用ができなくなっている点も難しい時代であること事実です。

(続く)

取扱い製品について

NK リング：ふっ素ゴムをふっ素樹脂で被覆した画期的なOリング

コードリング：英国NES社の誇るふっ素ゴムつなぎOリング

TESNIT：スロベニアDONIT TESNIT社製の高品質ジョイントシート

その他の各種シール製品

以上の詳細はホームページに記載していますので、是非ご覧ください。カタログや技術資料は、ご要望がございました下記の本社宛にご一報ください。

コタニ株式会社

本社：神戸市中央区浜辺通2-1-30

TEL:078-251-5300 FAX:078-251-5307

FAX 通信の記事についてのご意見や質問がございましたら下記の担当者に連絡ください。(担当：根本)